

2022年1期4課 私達の忠実な兄弟イエス

【暗証聖句】ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、ヘブライ人への手紙 2:14

【今週のポイント】

今週はイエス様が人となられたことを通して、私達の信仰の在り方を学びます。

【日・贖い主なる兄弟】

貧しさのゆえに財産や自分自身さえも売らなければならなくなった場合、家族や親族が買い戻す権利が定められていました。もし買い戻してくれる家族や親族がない場合、その人自身が後に豊かになれば、自分で買い戻すことができる権利を有している他、50年のヨベルの年を迎えたら、無償で返却を受けることができると規定されていました。

レビ記 25:25 「もし同胞の一人が貧しくなったため、自分の所有地の一部を売ったならば、それを買い戻す義務を負う親戚が来て、売った土地を買い戻さねばならない。25:26 もしその人のために買い戻す人がいなかった場合、その人自身が後に豊かになって、自分で買い戻すことができるようになったならば、25:27 その人は売ってからの年数を数え、次のヨベルの年までに残る年数に従って計算して、買った人に支払えば、自分の所有地の返却を受けることができる」

レビ記 25:47 「もしあなたのもとに住む、寄留者、滞在者が豊かになり、あなたの同胞が貧しくなって、あなたのもとに住む寄留者ないしはその家族の者に身売りしたときは、25:48 身売りをした後でも、その人は買い戻しの権利を保有する。その人の兄弟はだれでもその人を買戻すことができる」

このような規定が定められていたのは、神様の愛と憐みのゆえですが、それと共に霊的には将来、神の御子イエス・キリストが私達を、罪による死の奴隷状態から解放するために、買い戻して下さるのだということを示すためでした。ヘブル 2:11で、「イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで」とありますように、イエス様は私達のことを兄弟と呼んでくださいます。それは兄弟には、奴隷を買い戻す権利があるからです。そして、ヘブル 2:14~16に、「子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした」とあるように、イエス様は私達を死の奴隷から解放して下さったのです。その際に支払われた代価が、十字架におけるイエス様の命でありました。

【月・彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせず】

日本では、クリスチャンであることが知られると都合が悪くなったり、馬鹿にされたり、時には恥ずかしい思いをすることがあるかもしれません。初代教会のヘブライ人たちも、「あざけられたり、苦しめられたり、見せ物にされるような恥ずかしい思いをしたことが幾度となくありました（ヘブライ 10:33）。それを耐え忍んでいくことができたのは、イエス様も教会の人たちのことを兄弟と呼ぶことを恥となさらなかったからです（ヘブル 2:11）。宇宙の王の王、主の主であられる方が、貧しい人間の姿をとってやってくるというのは、冠を置き、恥を忍び、どこまでも謙遜でなければできないことでした。しかし、それをイエス様は迷うことなくして下さったのです。だから私達もキリストのゆえの恥を忍ぶのです。かつて、モーセは「ファラオの王女の子と呼ばれることを拒んで…神の民と共に虐待される方を選び、キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考えました」（ヘブル 11:24~26）。これはイエス様の精神が宿っていたからできたのです。

ところが、ヘブライ 13:13に、「だから、わたしたちは、イエスが受けられた辱めを担い、宿営の外に出て、そのみもとに赴こうではありませんか」と励ましているように、あるいは、第二テモテ 1:8で「だから、わたしたちの主を証しすることも、わたしが主の囚人であることも恥じてはなりません」と教えられているように、信仰を持つことによって恥ずかしい思いをしたくないと思う信徒が少なからずいたことがわかります。

【火・私達のように血と肉を備えられた】

ヘブライ 2:14 で、「ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました」とあるように、イエス様は私達と同じ肉体をとってこの地上に来てくださいました。血肉と表現されたのは、私達と同じ肉体をとられただけでなく、様々な弱さを持った状態でお生まれになったということを現わしています。血肉を持ってこられた以上、イエス様も私たちと同じように死に従属していました。その点では私達と全く同じでした。

しかし、イエス様は弱い肉体を持ってお生まれになりましたが、ヘブライ 4:15 に「罪を犯されなかった」と書かれてあります。またヘブライ 7:26 では「このように聖であり、罪なく、汚れなく」とも書かれてあります。罪を贖う効力のある犠牲の捧げ物は、清くて傷のないものでなければならなかったのです。イエス様はアダムが犯した過ちを、同じ人間の肉体をもって勝利し、その上でその尊い命を捧げる必要があったのです。しかし、イエス様が取られた肉体は、アダムの状態よりも罪により弱くなっており、かつ罪に汚れた誘惑がうずまく世界において、勝利しなければなりません。それは想像を絶するようなことだったでしょう。しかし、イエス様は、見事に「御自分の死によって死を滅ぼ」（ヘブライ 2:14）されたのです。

【水・苦しみを通して完全な者とされる】

ヘブライ 2:10 に、「というのは、多くの子らを栄光へと導くために、彼らの救いの創始者を数々の苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の目標であり源である方に、ふさわしいことであったからです」と、イエス様は苦しみを通して完全なものとなったとあります。イエス様の苦しみとは、数々の嘲りや、弟子の裏切り、そして十字架によって父なる神から引き離され、孤独のうちに死んで行かれたことでありましょう。なぜ、御子はこのような苦しみに合わなければならなかったのでしょうか。この苦しみとはすべて私達の罪から来ているのです。私達がイエス様を苦しめたのです。そう思うと、言葉がありません。しかしイエス様は屠り場に連れて行かれる小羊のように、口を開かず、だまって耐えられたのです。ここに計り知れない大きな愛があるのです。

また、苦しみを通って完全な者となったのは、私達の模範となるためでもありました。私達も様々な人生の苦しみに遭遇します。なぜと、神様に不満を言いたくなることもあるかもしれません。しかし、イエス様も同じ苦しみを通られたのだと思出すのです。そして、この苦しみが私達をも完全なものへと作り変えて行くと思えるのです。

【木・型としての兄弟】

イエス様が人性をとり、私達の間で生きられたのは、私達の模範となるためでもありました。ゆえに、ヘブライ 12:1、2 にかけて、「すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら」と教えられているのです。私達の信仰を初めて下さった方はイエス様です。イエス様に選ばれて、信仰の世界に目が開かれたのです。イエス様が私達を選んで下さったのは、豊かな実を实らせるため（ヨハネ 15:16）、すなわち永遠の命に至るためだとイエス様が言われました。そして、私達を選び、その信仰を始めて下さった方は、私達の信仰の導き手でもあります。口語訳聖書では、創始者という言葉で導き手と訳しています。信仰の創始者であるイエス様は、責任をもって私達の信仰を育み、豊かな実を实らせるようにと導いて下さるのです。弟子たちを選び、一人ひとりの個性に合わせて育て、導かれたように。また、イエス様は信仰の完成者でもあられます。私たちは、どうしたら信仰が完成されるのだろうかかと悩んでいるかもしれません。答えははっきりと示されているのです。それはすべての重荷や罪をかなぐり捨てて、信仰を完成して下さるイエス様を見つめながら、忍耐強く、定められた競争を走りに抜くことです。競争は戦いとも訳される言葉です。この罪の世界に生きている以上、信仰の戦いは続きます。しかし、イエス様を見つめ続けるなら、必ず勝利が訪れます。勝利の先には、平和の御国が待っているのです。